

養蜂で自然の偉大さ感じて

「前橋テルサ」中庭でプロジェクト

エフエム群馬番組内で進捗報告

「ハニープロジェクト」が始まった。ミツバチはきれいな環境でしか生きることができないため「環境指標生物」とされ、近年、世界中でその数が激減している。今後、養蜂を通して自然の豊かさや環境保護の大切さを子ども向けのワークショップなどを開き、まちおこしにつなげるといふ。

プロジェクト発案者はエフエム群馬の朝の人気番組「ワイワイグループ」のパーソナリティー内藤聡さん。飼育するのは、多目的施設「前橋テルサ」（前橋市千代田町2、12階建て）の10階にある中庭。広さ約200



前橋テルサの中庭に設置した巣箱を開けて、ミツバチを放つ内藤聡さん(中央)ら。前橋市千代田町2で

平方メートルの中央付近に巣箱を設置し、約8000匹のミツバチを放ち、周辺の花々から蜜を集める。ミツバチの行動範囲が半径約2キロ圏内で、女王バチのいる巣箱に戻ってくる習性を利用する。同様の取り組みは東京の銀座や仏パリなどでも実施され、各地で環境の見直しや緑化推進のきっかけにもなっている。

プロジェクトが始まった17日、内藤さんらが、沖縄県から空輸で運ばれた巣箱のふたを開けると、中にいたミツバチが次々と外に飛び出した。蜜源を求めてさっそく付近の探索を始めるハチもいて、内藤さんは「ミツバチが街の中を飛び、人間と共存している光景からは、自然の偉大さと生命の尊さを感じられる」と目を細めた。番組内で随時、プロジェクトの進捗状況を報告するといふ。

順調にいけば、夏ごろには約5匹の養蜂を採取できる見込み。一般的にミツバチは人が危害を加えなければ刺してくることはないといふ。

【鈴木敦子】